

根羽村猟友会

調査団体名	根羽村猟友会	団体代表者名	石原邦雄
設立年	50年ほど前	対応してくれた人の名前	西尾竹司
団体URL			
活動拠点	長野県下伊那郡根羽村	調査員	高橋伸夫、洲崎燈子、安藤里恵、鈴木啓佑
取材日	2013年12月9日	レポート作成者	鈴木啓佑

活動内容

昔は各家の玄関に火縄銃が掛けてあり、昭和初期くらいから各部落ごとに猟をしていた。根羽猟友会として一つになったのは50年ほど前。
 現在猟友会は総員20名。猟銃所持者は全部で13名、内、空気銃1名でほとんどは罠と銃を両方とっている。その他は罠猟免許のみ。
 猟期(銃)は11月15日～2月15日(罠は11月15日～3月15日)、その他期間は駆除期間として罠猟のみをしている。有害鳥獣駆除隊を昨年7月から新たに結成。特にシカとサルの食害がひどく、住民が困っている。サル、シカ、イノシシ、カワウ、アオサギは一年中、申請して報告があったらすぐに飛んでいけるように対応している。
 シカは昨年度は244頭捕獲、4月から11月に260頭捕獲した。ほとんど「くくり罠」で捕獲している。長野県では猟期は12cm、それ以外の駆除期間は20cmの罠を使用している。「箱罠」はほとんど入らない。厳冬期はほとんど「巻狩り」で捕獲する。厳冬期のくくり罠は凍り付いてしまい、正常に作動しないことが多いのであまり使い物にならない。根羽村では2007(平成19)年8月に、村が獣肉処理施設をネバーランド内につくってくれた。以前は野原で解体をしていたが、暗くなると車のライトで照らすも自分の陰で見えなくなったり、風があれば木の葉等がかかり衛生面でもよくなかった。今では食肉として売れるようになった。シカがメイン。獣肉は半分はネバーランドに卸して、半分くらいを仲間ですべてさばいている。イノシシも真空パックして、ラベルを作って売っている。シカは全てネバーランドに卸し、ネバーランドが商品化している。愛知県へも、名古屋市内のホテルに毎年クリスマスには20kgから30kgのシカのロースを納めている。収益はそれほどない。肉自体が高ければ料理も高くなってしまふ。だから、損得勘定を別にして、根羽村のネバーランドが捕れた肉を活かして商売してくれればそれでいい。1頭捕っても何千円くらい。

キャッチフレーズ

鉄砲撃ち、昔は道楽もん、今は人助け

会のモットー(何を大切にしているか)

住民が困らないように有害鳥獣を駆除することが猟友会の使命。

設立から現在に至るまで変化したこと

いろいろ規制が変わり、それをクリアしていかなければならないことが大変。特に2007年の佐世保の散弾銃乱射事件以降、銃刀法が改正され厳しくなり、他の地域では半数近くの人が猟友会をやめた。後継者が少なくなった。

連携している団体・専門家・自治体など

有害鳥獣駆除隊の事務局を根羽村役場内に置いている。隊長は村長。
 他地域猟友会

山村再生や、その担い手づくりに関わる具体的な活動(例:小仕事づくり、山村・森林資源活用など)

- ・獣肉処理施設: 村内集客施設ネバーランドに併設した処理施設により、駆除した獣肉を衛生的に処理し販売できるようになった。
- ・有害鳥獣駆除隊: 射撃試験免除などで、狩猟免許を更新しやすくしている。また、サル、シカ、イノシシ、カワウ、アオサギは通年捕獲できるように申請を出し、速やかな対応ができるようにしている。

現在直面している課題

猟友会員が少ない上、後継者も少ない。西尾氏が現在67歳。氏より若い方は5名しかおらず、10年後どうなっているのか心配している。
猟銃所持者は上矢作町で3名。津具村も少ない。平谷村も3名。売木村も少なくなった。根羽村は多い方。根羽村ではもともと各戸に猟銃は1丁あった。それくらい盛んだった。

今後やってみたいこと

シカの皮をなめして利用したり販売してみたい。

チームオリジナルの質問

<質問内容>昔から猟が盛んだったようですが、もともと獣は多かったのでしょうか。

<答え>もともと多かったのでしょうか。

シカはもともとはいなかった。初めて見たのは12、3年前でそれから一気に増えた。

クマも増えている。毎年1頭か2頭は人家のすぐ近くに出没する。

イノシシは減っている。逆にシカが増えた。イノシシは夜行性で昼間寝ているが、シカは昼夜関係なく活動している。

イノシシの睡眠をシカが邪魔をするので、イノシシがいやがって愛知の方へ移動していると思われる。

カワウも10年くらい前から増えだした。カワウは魚350g/日くらい補食するといわれている。海にいる頃は人間の利用しないボラを主に補食していたのでよかったが、河川では大きな被害となる。カワウは3月から13羽、アオサギは1羽か2羽しか駆除していない。カワウが増えだしてからヤマセミが減った。

サルは増えているか減っているのかわからない。多い時には60、70頭くらいの群れで現れる。

アライグマも増えた。今年度も6、7頭死んでいるのを見た。

ハクビシンも出る。よく轢かれて死んでいる。

その他、伝えたいこと

今では各自治体における害獣駆除の補助金も多く出されるようになり、猟師を生業にする若い人も出てきた。サルは罠でも捕れるようになったが、銃の方が多し。罠は1人30個しか設置できない。それを見回る必要があるため、勤め人では難しい。

写真



自家製シカ肉の薫製とイノシシ肉(商品)を見せる西尾氏



根羽村ネバーランド特製“肉のくわちゃんシリーズ”『いのししのタカ!』